

めなかったが, SNP8NRG243177, SNP8NRG241930, rs1081062 において, マイナーアレルのホモが患者群に有意に多く認められた。4つの SNP で構成されるハプロタイプによる相関解析では, permutation $P = 0.026$ と有意な結果を得た。

8 放射線誘発マウス胸腺リンパ腫の感受性遺伝子 *Mtf-1* の同定

丸山 正樹・田村 康・藤澤 裕美
小幡 美貴・三嶋 行雄・木南 凌

新潟大学大学院医歯学総合研究科
遺伝子制御講座分子生物学

発がんリスクを左右する遺伝因子は「古い起源をもつ, ありふれたアレル」に由来すると考えられており, ヒトの大規模実験が進められている。しかし, 遺伝的相互作用の存在が示され, QTL の解析の複雑さ・困難さが指摘されている。モデル動物は連鎖不平衡解析でどこまで感受性遺伝子を捕捉できるかを推定することができ, ヒト QTL 解析の補完的役割をもつ。我々は, 放射線誘発マウス胸腺リンパ腫モデルを用いてリンパ腫発症頻度に影響する系統差の解析 (連鎖不平衡解析) を行い, がん感受性遺伝子 *Mtf-1* を同定した。*Mtf-1* は, 放射線暴露を含めたストレス応答遺伝子であり, ラジカル・スカベンジャーである *MtI* や, 抗アポトーシス作用を持つ *PIGF* などの発現を制御する。それゆえ誘導効率の高い系統では, 放射線効果を減弱させ, 放射線発がん抵抗性を与えると考えられる。また, マウスの生息分布調査からも2種類のアレルの起源が古いことが示され, 当初の仮説に合致することが分かった。以上から, ありふれたアレルに由来するヒト *Mtf-1* 多型は, 診断用 X 線被爆による発がんリスクや放射線治療後の続発性悪性腫瘍に影響を与える可能性が示唆される。

II. 教育講演

「ゲノムデータ解析の実際」

東京女子医科大学附属
膠原病リウマチ痛風センター所長
鎌谷直之

第 239 回新潟循環器談話会

日時 平成 16 年 6 月 26 日 (土)
午後 3 時～
会場 万代シルバーホテル 5 階
万代の間

I. 一般演題

1 高位側壁梗塞に合併し, 心原性ショックを来した急性僧帽弁閉鎖不全の 1 例

大塚 英明・樋口浩太郎・柳川 貴央
宮北 靖・齋藤 寛文*

新潟こばり病院循環器内科
同 心臓血管外科*

症例は 73 歳男性, 既往歴・家族歴に特記事項なし。平成 16 年 3 月 4 日誘因なく断続的に胸痛あり。3 月 6 日 14:00 より再度胸痛出現, 持続するため, 救急車にて 15:30 当院搬送される。来院時胸痛 4 割, 顔色不良, 冷汗あり, 血圧 64 mmHg/触診, 脈拍 80 整。心電図にて I 誘導 R 波減高, aVLQS, V5, 6q および陰性 T を認め, 心筋トロポニン T 陽性, CPK 1817 と増加しており, 高位側壁急性心筋梗塞と診断。胸部 X 線写真では高度肺うっ血を認めた。心エコー図では僧帽弁前尖は完全に逸脱しており重度僧帽弁閉鎖不全を認め, 左室壁運動は亢進を認めた。また逸脱した前尖の先に約 10mm 径の mass を認めた。緊急冠動